

# 令和7年度小平市立小平第十一小学校～「全国学力・学習状況調査」結果概要～

## 1 調査目的・対象

児童・生徒の学力や学習状況を把握・分析し、成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、今後の児童・生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てるための調査です。

## 2 調査内容

### (1) 教科に関する調査

身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等、また、知識・技能を実生活の様々な場面で活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関することを児童が答える調査です。

### (2) 生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査

学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関することを児童が答える調査です。

## 3 各教科の調査結果の分析

### 【国語】

#### 状況の分析

都平均と比べ、話すこと・聞くことの領域では1.2ポイント、書くことの領域では5.4ポイント、読むことの領域では6ポイント上回った。観点別でも都平均を上回った。

#### 課題

学習指導要領の内容「情報の扱い方に関する事項」「我が国の言語文化に関する事項」の正答率が都平均より下回った。このことから、より一層の情報の効果的な活用や言語文化への理解を深める授業改善が求められる。

### 学校で取り組む具体的な改善策

全校で日常的に短作文（朝学習時）に取り組んでいる。短作文の課題を、高学年では時事問題にするなど、発達段階に応じたものにし、日常的に情報を活用する意識を高めながら、自分の考えを構築できるようにする。また、我が国の言語文化に関する学習時に、「味見読書」「音読」に継続して取り組んだり、読書環境をより充実させたりし、日常的に楽しみながら言語感覚を豊かにできるようにする。

### 【算数】

#### 状況の分析

全ての領域において全国平均、都平均を上回った。特に、図形の領域では、全国平均よりも15.5ポイント、都平均より10.5ポイント高かった。また、観点別評価においても「知識・技能」「思考・判断・表現」の両観点で全国平均、都平均を上回った。

#### 課題

学習指導要領の内容「C 測定」の正答率が全国や都の平均と同じように低くなっている。特に、伴って変わる二つの数量の関係についての学習について、学習内容のより確実な定着を図るための授業改善が求められる。

### 学校で取り組む具体的な改善策

本校では、各学期が始まる前に各学年担任と算数習熟度委員会を開き、算数の授業を中長期的に計画している。その中で、「C 測定」の学習計画について丁寧に確認を行う。また、「C 測定」の単元の学習前には、学年の教員と児童の実態に合った具体物や半具体物の準備、表やグラフの掲示や児童用のプリントの準備について相談し、活用することで学習を充実させ、一人一人の学力を確かなものにしていく。

**【理科】**

## 状況の分析

## 課題

全ての領域において全国平均、都平均を上回った。特に生命を柱とする領域では、全国平均より12.8ポイント、都平均より10.7ポイント高かった。また、観点別評価では、「知識・技能」「思考・判断・表現」の両観点において全国平均、都平均を上回った。

学習指導要領の内容 A 区分「エネルギー」を柱とする領域の中から乾電池のつなぎ方について、直列つなぎに関する知識が全国平均、都平均を下回った。このことからより一層「エネルギー」についての理解を深める授業改善が求められる。

## 学校で取り組む具体的な改善策

本校では、理科専科教員が配置されていることから理科専科教員を中心とした年間指導計画や授業改善推進プランが立てられている。担任による授業で計画されている領域については、専科教員に指導計画や準備物の用意などを相談することで授業内容の充実を図り、児童の学習内容の理解を深められるようにしていく。全国平均、都平均を下回った「エネルギー」を柱とする領域では、実験を通して具体物を操作する活動を多く取り入れることにより、電気の性質や働きについて理解を深められるようにする。

**【質問紙】**

## 状況の分析

## 課題

都平均と比較して、これまでの学習で ICT 機器を用いている、ICT 機器を日常的に使用することに慣れている、自分で活用できていると自覚している児童が多いことが分かった。将来の夢や目標をもっていたり、自分にはよいところがあると思っていたりする児童が多く、自分自身のことに対して前向きに捉えることができている。

都平均と比較して、授業時間以外に児童が学習に取り組む時間が30分より少ないと回答した割合がやや多かった。家庭学習において、学習したことを知識として定着できるような学習を提示し、家庭学習の充実を図る。また、引き続き ICT 機器を適度な頻度で適切に活用する習慣を身に付けることができるようにする。

## 学校で取り組む具体的な改善策

引き続き、ICT 機器を日常的に活用し学習に生かす授業改善に取り組むとともに、各教科や道徳の授業を通して、改めて情報リテラシーや情報モラルについての児童の理解を深めていく。

家庭学習については、児童一人一人の学習についての課題や目的を明らかにし、意図をもって家庭学習に取り組めるようにする。特に自主学習については、自分のテーマ追究や課題克服など、自分なりに考えた学習内容・方法を尊重し進めさせていく。テーマや課題が決まらない児童に対しては、取り組みやすいテーマを提示したり、今後の学習の見通しをもたせたりすることで、習慣化を図っていく。